

【議事】

(1) M-V ロケット 7 号機の打上げに係る安全対策について

JAXA の M-V ロケットの実験主任を務める森田泰弘氏が資料 3-1-1 を用いて全快の報告との変更点を説明した後、下記のような質疑応答があった。なお、引き続き文科省の瀬下補佐が資料 3-1-2 (安全部会としての審査報告書) を 40 分ほどかけて説明した後、質疑なく承認された。

青江：実態がしっかりしているにも拘らず、文書に手落ちがあるとは如何なものか。

JAXA 森田：反省する。また、もう一つの件である各主任+代理は、相互にチェックしながら作業を進める。

青江：ほかの 3 人の主任の下には班があるのに、電気系主任の下には班がない。

JAXA 森田：実験主任が直接統制する管制班以下の各班にたいし、電気系のことについては電気系主任が統制し、実験主任に報告するようになっている。

青江：それなら線のつなぎ方を変えなければならない。

JAXA 森田：了解した。

馬島：主任と代理の体制は H-II A とは違う体制なのか。

JAXA 森田：同じである。今まで M-V の体制図に明記されていなかった。

工藤：衛星保安主任がヒドラジンを扱う作業の責任者なのか。

JAXA 森田：そうである。

井口：(先の青江委員と同じ話を始めた。記載を省略)

JAXA 森田：先ほどの青江委員のご質問と同じだと思うが…(同じ回答を繰り返した。記載を省略)

佐藤²：射場の電力は商業電源を使っていることだと思うが、破壊工作等でこの部分が脆弱性の高いものの一つである。停電になれば自家発電に切り替えるのであろうが、誤信号を発生させることが危惧される。大丈夫なのか。

JAXA 森田：商業電力の外に自家発電装置 3 台を保有している。このうち 1 台は場内全体に給電するもの、(後の説明は細かすぎてメモが取れなかった)

佐藤：組織上は何処が担当するのか。

JAXA 森田：USC 保安担当が責任者で、その下の電気・水道係が作業を行う。

佐藤：停電から自家発電の開始までの時間は十分に早いのか。

JAXA 森田：そもそも内之浦は電力事情が悪く、常々自家発電への切り替え訓練を行っている。ご安心いただけると思う。

佐藤：停電している状態では通信系が働かず、指令破壊ができなくなるのではないか。

JAXA 森田：通信系が働かない状態では指令破壊はできない。

井口：H-II A には自爆装置が付いていませんでしたか。

² 事前準備が不十分であったためか、この委員の質問の趣旨がつかめず、良い報告になっていない。破壊工作を懸念しているのであれば、指令破壊は不要ではなからうか。それとも、武装した部隊が進出してロケットを持ち出そうとしたら指令破壊しようというのであろうか。

JAXA もう一人：SRB-A が早期分離したときに（SRB-A を）
自動的に破壊するための装置は搭載している。本体は全
て指令破壊であり、自動破壊装置は使っていない。